

令和4年3月

第294回定例市議会

市長施政方針

はじめに

本日、第294回加西市議会定例会の開会に際し、令和4年度の予算をはじめとする諸案件の審議をお願いするにあたり、お時間をいただき、新年度の市政運営に臨む所信の一端を申し上げ、議員各位並びに市民の皆さまのご理解とご賛同を賜りたいと存じます。

今回策定した施政方針の柱は3点です。

まず「子育て世代にやさしいまち」を目指します。新たに、小中学校や特別支援学校の給食費、0・1・2歳児の保育料、病児病後児保育料を無償化します。昨年7月から実施している高校3年生までの医療費無料とあわせ、給食と保育、医療のすべてを無償化します。県内の自治体では初めての実施です。

私は、市長就任以来人口5万人を目指し、様々な人口増施策を実施してきました。しかし、就任時から約4,000人減少しています。平成28年からの4年間は社会減が回復し、平成30年度は社会増になりましたが、この間も女性流出は続いていました。令和2年度の出生者数は190人と市制発足以来最低の数値となり、令和3年の合計特殊出生率も0.91と大きく落ち込んでいます。これは、私が行ってきた人口増施策が、結果として若い女性に届かないものだったと考えています。これまでの定住促進住宅補助や家賃補助、UJIターン補助などの施策については令和4年度に見直すとともに、子育て支援や教育の充実を図り、子育て世代、特に若い女性に選ばれるまちに向け大きく舵を切っていきます。

次に「多様性が尊重される社会」を目指します。教育委員会では「加西STEAM」をさらに推進します。STEAM人材に求められるとされる「人類愛」「多様性」「イノベーション」の mindset を持った次世代型の教育を進めます。こうした特色のある教育は、子育て世代にもきっと魅力的なものになります。

また、性差や国籍などに関わらず、誰もがいきいきと活躍できる社会の実現に向け、積極的に施策を展開します。特に女性が活躍するための施策に注力します。

最後は「脱炭素社会」を目指します。公共施設の自立分散型エネルギーシステムの導入を進めるとともに、企業や市民の皆さまへの太陽光発電設備や蓄電池の整備を支援し、ゼロカーボンシティの実現に向けた施策を進めます。脱炭素化を図ることは、未来を担う世代に対する社会的責任であり、こうした取り組みを進めることで「社会的課題に挑戦し、変化する加西市」をアピールします。その結果、加西市のブランド化やシビックプライドを高め、多様な市民が自分らしく、ともに心豊かに暮らすことができるまちづくりに取り組んでいきます。

予算編成の基本方針

それでは、令和4年度における予算編成にあたっての基本方針をご説明いたします。

令和4年度、加西市は市制施行55周年を迎えます。これまでの軌跡をたどり、輝かしい未来への飛躍を祈念する節目の年です。それだけに、加西市が抱える課題を克服し、将来に渡って発展していくための予算と位置づけています。

最重点施策として、子育て世代の隅々にまで支援を拡大し、出産から保育・教育まで切れ目のない、きめ細かい支援を展開し、魅力ある住み良いまちとして子育て世代の流入を促します。

また、市全体で、地球温暖化対策にいち早く取り組んでいくため、脱炭素化社会実現のための支援・施策を実行し、デジタル化を推進し、行政手続きのオンライン化による市民サービスの向上と、業務の効率化を図ります。

さらに、地域活性化拠点施設「s o r a かさい」を中心とする鶉野飛行場跡地周辺を活かし、地域と連携した観光振興を図ります。

これらの施策に重点を置きながら、同時に、量入制出の原則のもと、財政規律を遵守し、予算編成をおこないました。市民からの要望をできる限り実現し、市民が希望をもって心豊かに暮らすことのできる、持続可能な都市の実現に邁進します。

令和4年度の主要な施策

新年度に取り組む主要な施策を、「第6次加西市総合計画」に掲げる4つの基本方針に沿って申し上げます。なお、所信表明では、それぞれの基本方針で、私なりの強い思いのみを述べさせていただき、基本方針ごとの政策は、お配りしている施政方針の中で、項目別に詳細を示しておりますので、お目通しいただければ幸いです。

【基本方針1 子育てを応援し、暮らしを愉しむ】

一つ目は、「子育てを応援し、暮らしを愉しむ」ための施策です。

保育料や給食費の無償化を始めるほか、屋内型遊戯施設とテレワークセンターが融合した日本で初めての施設「アスモ」のオープンを機に、ポストコロナ時代の新しい暮らし方・働き方を提案・実践していきます。

また、出産祝い金やすくすく子育て定期便などの新たな施策を実施するとともに、既存の子育て施策と合わせてパッケージ化し、強力にPRをすることにより、子育て世代の呼び込みを進めます。

学校教育では、加西STEAMの推進に加え、加西市の将来を担う子どもたちにとって望ましい教育環境の在り方とその具体的な方策について検討するため、引き続き「加西市未来の学校構想検討委員会」にて市民との議論を深め、方向性を決定します。

（政策1 新しい家族と出会い、育むための支援の充実）

結婚支援では「加西市出逢いサポートセンター」を中心とした出逢いのバックアップを行うとともに、男性不妊治療や不育症治療に対する助成等、妊娠・出産支援を行うほか、安心して出産、子育てができるよう「子育て世代包括支援センター」を中心とした電話や訪問による相談を行うなど、切れ目ない支援に加え、母子保健対策としてアウトリーチ（訪問）型事業の充実を図り、産後の手厚い支援に取り組みます。

子育て支援の推進として、0・1・2歳児の保育料や病児病後児保育料の無償化を始め、小規模保育所や泉学童保育園舎の整備を図るなど、更なる充実を図るとともに、子どもを対象としたおたふくかぜ予防接種の助成対象を未就学児までに拡大し、季節性インフルエンザワクチンの一部助成対象に産婦、1歳以上の幼児を追加するほか、お子様の誕生の出産祝い金として5万円を支給するとともに、すくすく子育て定期便を開始し、1歳未満の乳児を育児されているご家庭に育児用品等を定期的に宅配して育児の孤立化の予防や見守り支援、子育て相談、ひとり親家庭の支援に取り組みます。

総合的な子育て支援施設として、未来型児童館の建設に向けた調査を進めるとともに、屋内型遊戯施設とテレワークセンターが融合した日本で初めての施設「アスモ」のオープンを機に、ポストコロナ時代の新しい暮らし方・働き方を提案・実践していきます。

(政策2 子どもの教育の充実)

令和4年度から新たに小中学校・特別支援学校の給食費の無料化を実施します。

学校教育では、引き続き外国語指導助手（ALT）の活用とともに、地域人材の活用や英語能力検定料の補助など、児童生徒の英語力の向上を図るとともに、1人1台端末の利活用、学校図書館の蔵書の充実や新聞の配置、スクールサポーター事業の拡充を行い、加西STEAMの推進や、学力向上等に努め、各校においては、特色を活かした学校づくりに努めるとともに、義務教育9年間を見通した小中連携を積極的に進めます。また、協議会と連携しながら北条高校活性化を進めていくとともに、播磨農業高校の地域交流活動を支援します。

さらに、臨床心理士によるカウンセリング、スクールソーシャルワーカーによる支援、適応教室の活用等、学校と関係機関が連携していじめ・不登校対策を講じるとともに、地域人材の活用など、地域との連携・協力のもと、子どもの学習支援・体験活動の推進に取り組みます。

そして、加西市の将来を担う子どもたちにとって望ましい教育環境の在り方とその具体的な方策について検討するため、令和3年度に引き続き「加西市未来の学校構想検討委員会」を開催し市民との議論を深め、方向性を決定します。

(政策3 生涯にわたって学び、楽しめる環境づくり)

生涯にわたって学び、楽しめる環境づくりとして、公民館等を拠点とした幅広い世代を対象とした講座やイベントの開催、加西市立図書館では、多様な世代に向けた読書定着への取組に努めるとともに、ICTを活用した電子図書の利用サービスを開始します。

芸術文化においては、こども狂言塾が三木市に加えて「姫路城薪能」からも招待を受けており、公演を通じた広域連携を進めるほか、スポーツでは、スポーツ推進委員会を中心としてニュースポーツの普及・推進を図り、高齢者や障がい者を含めた幅広い対象者がスポーツを楽しめる環境を整えるとともに、第10回を迎える「グリーンパークトライアスロン」や、プロのアスリートや指導者を迎えたスポーツイベントを開催して一流のスポーツに触れあえる機会を充実させます。このような取組を進めるための環境整備として、老朽化した勤労者体育センターの耐震改修に着手します。

新たに健幸都市推進事業として、子育て世代をターゲットとした講座や親子体操等の子育て支援や、市民の健幸づくり支援など、誰もが幸せに暮らすことができる取組を行います。健康づくりでは、乳がん検診において、個別勧奨を

実施し、病気の早期発見・治療に努めるほか、第3期食育推進計画を策定し、地産地消の推進、幅広い年齢層への食の健康教育に努めるとともに、小・中学校にて栄養教諭を中心とした食育指導や健全な食習慣の習得に加え、生産者との交流機会を拡大し、農業や地産地消への理解を深められるよう努めます。

（政策4 くらしを支える福祉・医療の充実）

住み慣れた地域でいきいきと自立した自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムを深化させます。認知症対策では、認知症地域支援推進員と連携し、予防施策の充実を図るとともに、地域住民とともに市民・行政・事業者連携で認知症になっても誰もが住み慣れた地域で暮らしていける地域づくりを目指します。

また、障がいのある人の重度化・高齢化を見据えた居住支援のため地域生活支援拠点の検討を進めるとともに、障がい児の通所支援として、十分なサービス提供の体制づくりに努め、聴覚障がい者に対しては、安心して相談や手続きができる体制を築くほか、手話の一層の普及啓発に努めます。また、重度及び高齢重度障害者等医療費助成制度について、精神障害の程度が3級に該当する方を新たに助成対象に加え、医療費の負担軽減を図ります。生活困窮者に対しては、地元企業の協力を得ながら一般就労への支援を行い、就労準備施設での就労訓練を通して、就労・自立につながる取り組みを行います。生活困窮家庭等の子どもへは、学習支援事業やひきこもり対策事業を実施し、社会参加に向けた支援を行っていきます。さらに、子どもの居場所や地域の人々とのつながりの場として、こども食堂の運営を支援していきます。

加西病院では、新病院への建替えに向け、実施設計に着手し、将来にわたり持続可能な病院運営の確立に資する経営改革に取り組みながら、近隣の医療機関と役割分担を行い、地域に必要とされる医療の提供に努めます。

【基本方針2 活力とにぎわいのあるまちを育む】

二つ目は、「活力とにぎわいのあるまちを育む」ための施策です。

加西インター産業団地では、第1期事業のうち1-2工区が完成・引き渡し済み、1-1・2・4工区は官民連携によって企業誘致と開発計画が大きく進捗し、順次、造成工事に着手できる見込みとなりました。進出企業のスケジュールどおり着実に整備を進め、地域経済の成長と雇用確保を確実なものとしていきます。続く第2期事業の3・5工区についても、早期に土地利用規制の緩

和を図り、さらなる企業立地を実現していきます。

鶉野飛行場跡では、周辺の戦争遺跡をフィールドミュージアムとして一体的に整備を行い、歴史学習の場を提供するとともに、地域の交流と消費拡大の核となる地域活性化拠点施設「s o r a かさい」の運営を開始します。また、「s o r a かさい」と（仮称）市道鶉野飛行場線の一部開通に合わせて、市内外の観光客と地域がさらに憩い交流する道の駅実現に向けた調査研究、計画づくりを進めていきます。また、「s o r a かさい」の来場者を市内観光へ誘導する施策を推進するとともに、気球の搭乗体験やレンタサイクルの充実など、地域資源を活かすための新たなサービスをビジネスに繋げる取り組みを推進します。

（政策5 農業の再生と活性化）

新規就農促進協議会の設立によって活発化した就農促進活動の取り組みを推進して就農による移住者を増やすほか、地域の担い手となる経営体の育成に努めます。また、新規就農者や認定農業者、集落営農組織を対象とした経営セミナー等を開催し、安定した経営への取組支援を行っていきます。

農業経営の支援として、集落営農や認定農業者の法人化への支援、機械導入や農耕用大型特殊免許の取得の支援を行うとともに、農地の集積・集約化を進めていきます。特産農産物の生産振興では、J A兵庫みらいと協働し、特産の柱であるブドウについて、市独自の棚整備及び苗木購入の補助を継続するとともに、加西ゴールデンベリーAに続く市場出荷品種ブラックビートの拡大に努めるほか、コロナ禍で消費が低迷する日本酒の消費を促し、酒米山田錦の生産振興を図ります。また、今まで産地として認知されていなかった高い生産技術力を誇るハボタンを含む花卉の積極的なPRを進めます。

作業省力化・効率化等を実現するため、スマート農業の推進、環境制御機能等の施設導入を支援します。ほ場整備事業では、東高室地区、在田南部地区を推進し、水稻及び野菜の生産コスト低減並びに生産拡大を図ります。市内に点在するため池については、今後発生が予想される異常気象に備え、計画的な改修を行います。有害鳥獣被害防止対策では、電気防護柵の補助対象を農会だけでなく認定農業者へも広げるとともに、既設の獣害防護柵の下部に電気防護柵を設置し、イノシシの侵入を防ぐ実証実験を行います。

（政策6 商工業の振興と新展開）

本市経済の中核を形成している製造業を中心として、異業種間・事業所間の

垣根を越え、事業者が新しい価値の創造へ挑戦しやすいように事業環境の整備に取り組みます。また、デジタル技術の活用や脱炭素社会へ向けたグリーン化による高付加価値化など、イノベーションを興す取組を支援するとともに、令和3年度より運用している市独自のスマホ決済アプリ「加西市ねっぴ〜Pay」を活用した、地域通貨が域内を循環する仕組みづくりに取り組み、地域経済の活性化とキャッシュレス決済の普及促進に取り組みます。また、商業施設の誘致に取り組み、住む人・働く人・訪れる人に魅力的なまちづくりを進めます。

また、創業ワンストップ相談窓口を設置し、スタートアップ支援や空き店舗活用補助など積極的に起業の促進を図るとともに、起業スクールやビジネスコンテストの開催を通じて、起業気運の醸成、起業アイデアのブラッシュアップ、コミュニティづくり、起業後のフォローアップ環境の整備に努めます。既存事業者の新規事業への取り組みやBtoCへの取り組み、事業承継等についても、加西商工会議所と連携しながら伴走型支援を進めます。

加西インター産業団地では、第1期事業のうち1-2工区が完成・引き渡し済み、1-1・2・4工区は官民連携によって企業誘致と開発計画が大きく進捗し、順次、造成工事に着手できる見込みとなりました。進出企業のスケジュールどおり着実に整備を進め、地域経済の成長と雇用確保を確かなものとしていきます。

続く第2期事業の3・5工区についても、早期に土地利用規制の緩和を図り、さらなる企業立地を実現していきます。

また、商業施設の進出をはじめ土地利用が活発化している中野地区市街化区域では、引き続き地区計画道路を整備し、さらなる生活利便性の向上、産業用地の整備、市内企業の拡張・移転を図っていきます。さらに、地域企業の雇用情報の提供の強化・充実を図り、市内の雇用力を高める環境づくりを推進するとともに、国が進める働き方改革に沿って、ワーク・ライフ・バランスに配慮し、子育てに配慮した職場環境づくりなど、市内労働者の働く環境を高める取り組みを進めます。

(政策7 地域資源の活用と人の流れの創出)

「加西市文化財保存活用計画」に基づき歴史文化遺産の保存活用を推進します。鶉野飛行場跡及び周辺の戦争遺跡をフィールドミュージアムとして一体的に整備を行い、鶉野飛行場に関する歴史学習の場を提供するとともに、地域の交流と消費拡大の核となる地域活性化拠点施設「soraかさい」の運営を開始します。また、「soraかさい」と（仮称）市道鶉野飛行場線の一部開通

に合わせて、市内外の観光客と地域がさらに憩い交流する道の駅実現に向けた調査研究、計画づくりを進めていきます。また、「s o r a かさい」への来場者の市内観光への誘導を推進するとともに、気球の搭乗体験やレンタサイクルの充実など、地域資源を活かすための新たなサービスをビジネスに繋げる取り組みを推進します。北条旧市街地では、国の交付金を活用した4種類のモデル拠点に加え、新たな店舗とも連携させながら、更に活気溢れ魅力的なまちとなるよう継続的な支援を実施します。また、観光による経済効果を高めるため、市内事業者によるおみやげや贈り物の開発を支援しPRを推進します。情報発信や観光案内機能の充実を図るため、SNSやwebサービスを活用した積極的な観光PRを進めます。

都市部の若者と市内で活躍する人々をつなぐ中間支援組織に移住・定住相談業務を委託し、移住相談などに加え、起業の相談も受けるなど、移住定住に関する様々な相談をワンストップで受ける窓口を設置することで、移住・定住の推進を図るほか、「加西空き家対策専門家協議会（通称：え〜がい加西）」と連携し、空き家の予防対策と活用を進めます。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により、都市部から地方への移住のニーズは高まっており、この人の流れを確実に捉えるために、お試し滞在補助や空き家バンク制度を活用すると共に、空き家を活用したお試し居住施設の整備に向けた調査を行い、移住・定住に結び付けます。

【基本方針3 快適に暮らせる安全な社会をつくる】

三つ目は、「快適に暮らせる安全な社会をつくる」ための施策です。

脱炭素社会に向けた取り組みのほか、水道事業では、令和4年4月以降の検針分より水道料金を一律10%引き下げ、市民の負担軽減を図ります。引き下げは、県水送水施設の完成に伴い市内全域に県営水道が送水可能となり、将来にわたり受水費総額の軽減が見込まれるためです。

加西市は自己水源が乏しく、水道水の安定供給は、昭和42年の市制発足に当たり最大の問題で住民の多年の懸案でした。その状況下、加西市の求めに対し、市川町が温かい厚意で英断いただき、昭和43年、市川水系から水道用水の分水が始まり、市内北部エリアに受水してきました。以来、市川町からの「友情の水」は、加西市民の生活を潤し、産業の発展を促し、温情への感謝に基づく両市町の信頼関係が築かれてきました。

近年は施設の老朽化が進み、両市町だけでの大規模更新が財政的に困難な状

況に直面しました。その間、加西市と市川町は協議を重ねてきましたが、結果的に県の協力も得て、市内全域に県営水道が送水可能となりました。「友情の水」は苦渋の決断により、契約に基づき令和8年3月に長い役割を遂げることとなりますが、今後も先人たちによって築かれた信頼関係に基づく友情を永く守り続けていきます。

(政策8 安全・安心に暮らせる環境の充実)

新型コロナワクチンの接種については、令和3年12月1日から、まず、医療従事者等より3回目の追加接種を開始しています。一般市民の方には、1月24日から個別接種、2月3日から集団接種を開始しており、オミクロン株の急激な感染拡大の中、国の方針に基づきながら、できる限り前倒しで接種する体制を整え、速やかな接種に努めていきます。また、市立加西病院では、新型コロナウイルス感染症重点医療機関として、引き続き県及び関係機関と連携、情報共有を行いながら、必要とされる専用病床を確保し、入院治療を受けられる体制の確立に努めます。

防災対策では、自主防災組織と消防団への支援充実を図るとともに、全市的な情報伝達システムの検討を含め、九会・富合南部地区の整備に着手し、防災体制の強化に取り組んでいきます。

防犯対策では、防犯カメラの主要な交差点等への設置や地域団体の防犯カメラ設置に対する助成について、引き続き実施するとともに、市街地から郊外に向かう主要路線に街灯の設置を行う「街灯り整備」を進めます。交通安全対策では、高齢者の運転事故防止対策として、車両の安全装置の購入及び設置にかかる費用の一部を引き続き補助します。

また、消費者被害の未然防止・拡大防止に向けた積極的な啓発等、予防に重点を置いた施策を行うとともに、迅速かつ的確な相談体制の強化を図ります。加えて、警察や地域の団体、事業者とも連携して消費者トラブル防止に取り組みます。

(政策9 快適な都市空間の創出)

住環境の整備について、中野地区では、新たな住宅地開発など宅地化を支援し、市街化調整区域では、引き続き、特別指定区域制度や地区計画制度を活用し大胆に建築規制の緩和を行い、課題解決に向けて地域主体のまちづくりを積極的に支援します。また、旧市街地では、住環境整備を引き続き進めるとともに、石畳風舗装を拡大します。

2050年ゼロカーボンシティの実現のため、地域の景観や自然環境との調和を図りながら、再生可能エネルギーの地産地消に向けて進めます。また、市内の脱炭素化施策として、公共施設を中心に自立分散型エネルギーシステムを構築し、市民には太陽光発電設備や蓄電池の整備、また電気自動車への転換を図る補助制度を実施します。ごみ対策では、ごみ減量に対する補助事業を継続的に実施するとともに、不法投棄・野焼き防止に向けた啓発、処理施設の延命化、災害時に円滑かつ迅速なごみ処理ができるよう取り組みを進めていきます。自然との共生においては、加西市の貴重な生態系の保全を地域住民と推進し、希少生物の生息状況について植生等の調査を行うとともに、生態系調査を取りまとめ、地域の活性化と環境学習への利活用を図ります。学校教育では、総合的な学習の時間を中心に、積極的に地域の風土や文化を活用した環境教育課程の編成に努めていきます。

(政策10 安全性と利便性が確保された都市基盤の整備)

道路網整備では、幹線市道の改良工事を計画的に実施するとともに、国道、県道の整備を県と共に進めます。特に、鶉野飛行場跡地周辺地区の活性化及び現国道の渋滞解消等のため、(仮称)市道鶉野飛行場線やその路線へ繋がる国道372号加西バイパスの整備について着実に取り組んでいきます。また、地域要望に重点を置き、市民生活に欠かせない集落内市道や通学路をはじめ歩道・自転車レーンの積極的な整備を進めるとともに、河川や橋梁の計画的な修繕により安全確保に努めます。

水道事業では、令和4年4月以降の検針分より水道料金を一律10%引き下げ、市民の負担軽減を図ります。引き下げは、県水送水施設の完成に伴い市内全域に県営水道が送水可能となり、将来にわたり受水費総額の軽減が見込まれるためです。下水道事業では、繁昌地区の汚水管路施設整備事業及び剣坂地区農業集落排水処理施設の公共下水道への接続事業を実施し、中野地区の雨水排水対策事業を引続き進めるとともに、汚水処理施設の適切な維持管理により、良好な生活環境の確保と公共用水域の水質保全に努めます。

また、北条鉄道・路線バス・コミュニティバス、地域主体型交通が一体となった交通ネットワークを確立するために、「加西市地域公共交通計画」を策定します。令和4年3月末には日吉地区ふるさと創造会議より、デマンド型乗り合いタクシー方式の「ひよタク」が運行される予定で、今後も第三、第四の地域主体型交通の導入について積極的に支援していきます。また、北条鉄道では、JR東日本から購入したキハ40形の運行を開始し、観光客の増加を目指しま

す。コミュニティバスについては、「s o r aかさい」のオープンに合わせて、4月より初めて土日祝祭日に市内観光地を巡るs o r aかさい線を運行することとしており、平日についても、通勤・通学・通院、買い物客への利便性向上のため、ダイヤやルートの再編を行い、公共交通の利便性向上に取り組みます。

【基本方針4 ともに活躍しまちの魅力を高める】

最後、四つ目は、「ともに活躍しまちの魅力を高める」ための施策です。

令和4年3月に策定する第3次加西市男女共同参画プラン及び今議会に提案しております加西市誰もが性差にとらわれず共に生きる社会づくり条例に基づき、誰もが性差に関係なく、あらゆる場で活躍でき、安心して暮らせる社会の実現に向けたまちづくりを進めるとともに、女性活躍への取組を促進します。

また、加西市DX推進計画に基づき、行政手続きのオンライン化による市民サービスの向上とともに、地域社会の課題解決のため、デジタル技術を活用して市民生活の利便性向上や地域産業の活性化に取り組むほか、行政事務のデジタル化を推進し、業務の効率化に努めていきます。

(政策11 協創のまちづくりの推進)

令和3年度には、市の今後の地域づくりを進めていくための目標や方向性を示した「地域づくりのあり方に関する指針」を策定しました。今後、この指針に基づき、地域と一体となって地域づくりを進めていきます。

シティプロモーションの推進として、加西市の都市イメージや認知度の向上のため魅力発信を行う団体等の支援を継続実施します。ふるさと納税では、ポータルサイトへの検索を増やす仕組みづくりや、クラウドファンディングの実施により、令和4年1月末で約14万8千人の方から61億2千万円のご寄附をいただいています。今後も、寄附者の方に継続して応援いただけるよう努めていきますとともに、ふるさと納税をきっかけに、加西市の魅力を知っていただくことで、加西市の知名度の向上につなげるよう取り組んでいきます。

広報・広聴の充実として、より親しみやすく読みやすい広報誌の作成に努め、各種施策やサービス・制度の周知を図るとともに、報道機関へのプレスリリースの充実を図るほか、市公式LINEの活用を進め、一人ひとりに適切な情報をタイムリーに発信していきます。また、様々な手段や機会を通じて市民のニーズを把握するとともに、市民から寄せられる提案や要望、意見に対し、適切かつ迅速な対応を行います。

(政策12 お互いを認め、尊重し合える社会の実現)

自分らしく暮らせる地域づくりの推進のため、お互いを認め合い、差別を許さないまちづくりを推進するとともに、人権擁護に関する条例の制定を目指します。児童虐待及びドメスティック・バイオレンス対策では、迅速な被害者保護と安全確保に努めます。また、障がいのある人への理解の促進や権利擁護の推進に取り組むとともに、高齢者の権利擁護に関わる相談などに対し、迅速で適切な対応に努め、互いに支え合いながら自己実現できる地域社会づくりを目指します。

また、令和4年3月に策定する第3次加西市男女共同参画プラン及び今議会に提案しております加西市誰もが性差にとらわれず共に生きる社会づくり条例に基づき、性差によらず誰もが自分らしく、あらゆる場で活躍でき、安心して暮らせる社会の実現に向けたまちづくりを進めるとともに、女性活躍への取組を促進します。また、女性の雇用促進のため、ふるさとハローワークによるきめ細かい就労支援やセミナーの開催、情報発信に努めます。

さらに、今後も増加が見込まれる外国人市民との多文化共生社会を実現するため、日本語教育事業の強化を図るなど、外国人も住みやすいまちづくりを実施します。また、鶉野飛行場跡周辺の戦争遺跡群一体を令和2年度から本格的な平和学習の場として受け入れを開始し、令和3年度も多くの学校が来訪されました。今後は、「空がつなぐまち・ひとづくり推進協議会」による連携・交流を継続するとともに、地域資源を活用した平和ツーリズムを展開します。

(政策13 効率的で持続可能な行財政の推進)

行政サービスの効率化や質の向上を図るため、行政事務の電子化をさらに推進するだけでなく、SDGs研修や広域研修へ参加することで、情勢の変化に対応できる職員の育成に努めるとともに、職員のワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な働き方を認め、業務環境の改善と能率向上を推進してまいります。また、「公共施設等総合管理計画」に基づき、公共施設の最適化を推進し、市に見合った施設規模となるよう取り組んでいきます。

また、加西市DX推進計画に基づき、行政手続きのオンライン化による市民サービスの向上とともに、地域社会の課題解決のため、デジタル技術を活用して市民生活の利便性向上や地域産業の活性化に取り組むほか、行政事務のデジタル化を推進し、業務の効率化に努めていきます。

さらに、北播磨広域定住自立圏や播磨圏域連携中枢都市圏など、他自治体と連携した取組を進めていくほか、民間活力を活用し、まちづくりの活性化と行政サービスの向上を図るため、大学や企業等との連携を強化します。

最後に

以上、令和4年度施政方針に基づき、今定例会に提案させていただいております「令和4年度当初予算案」をはじめ、各議案につきまして、ご審議をよろしくお願い申し上げます。

議員各位並びに市民の皆さまのご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。